

特別支援学校等

令和5年度

教育研究員研究報告書

発達障害等教育

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
	1 基礎研究	2
	2 実践研究	2
V	研究構想図	3
VI	研究の内容	4
	1 基礎研究	4
	2 実践研究	5
VII	研究の成果と今後の課題	15

研究主題

発達障害のある児童・生徒が 自分のよさや強みを見付ける指導の工夫 ～自己の理解を深め、自己肯定感を育む指導～

I 研究主題設定の理由

中央審議会で取りまとめられた『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会令和3年1月26日）では、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる」ことができるよう、その資質・能力の育成が求められている。また、「東京都教育施策大綱」（東京都教育委員会 令和3年3月30日）では、『未来の東京』に生きる子供の姿」の求められる資質の一つとして、「知識の習得だけでなく、自分の可能性を自分で認め、自己肯定感や自己有用感をもって、どのように人生や社会をより良いものにしていくのか、自ら考え、時にはリカレント教育にも挑戦しながら、そのもてる力を不断に伸ばし、発揮していくこと」が示されている。

本研究に携わる教員は、・中学校の特別支援教室、小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級、中学校の知的障害特別支援学級を担当している。インクルーシブ教育システムの推進により多様な学びの場が整備され、柔軟な選択がとられているが、発達障害のある児童・生徒の多くが、社会性の発達に偏りなどがあり、他者の意図や感情の理解、自分の行動の特徴の理解が十分ではないという現状がある。また、それらのことが要因となり、場の状況に応じた行動をとることが難しく、人との関わりでつまずきや失敗に対する指摘が重なることで、自己を肯定的に捉えられなくなる場合が多く見られる。その結果、活動に消極的になったり、集団への参加に抵抗を示したりして、自分のよさや力を発揮する機会が減ってしまうことがある。

そこで、児童・生徒が自分と向き合い特徴を理解して、自分のよさや可能性を認識すること、その可能性を自分で認め、自己肯定感や自己有用感を育み、集団の中で状況に応じた行動ができるようになることが重要であると考えた。

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年3月）（以下、「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」と表記。）において、連続した多様な学びの場で、「障害の重度・重複化や発達障害を含む多様な障害に応じた指導や、自己の理解を深め主体的に学ぶ意欲を伸長するなどの発達の段階を踏まえた指導」の充実を図ることを改訂のポイントの一つとして取り上げている。このことから、校種や学年、障害の種類を問わず、一人一人の児童・生徒の実態把握を基に、自己理解を深めるためのツールの作成を行うこととした。ツールの作成に当たっては、障害による学習上又は生活上の困難や課題よりも、児童・生徒が自分のよさや強みに目を向けることができるようにすることを本研究の軸とした。

さらに、一人1台端末などのデジタルを活用した教育活動も重視し、児童・生徒が、より主体的に学び、相互のよさを認め合うことができる指導の工夫について考えることとした。

以上のことから本研究では、発達障害のある児童・生徒が自分のよさや強みを見付ける指導の工夫をすることにより、自己の理解を深め、自己肯定感を育めるよう、本主題を設定した。

II 研究の視点

本研究では、次の二つの視点から研究に取り組むこととした。

視点① 発達段階を踏まえた、児童・生徒が自己を理解するための「自己発見シート」の作成

視点② 児童・生徒が自分のよさや強みを見付けるための指導の工夫

III 研究の仮説

発達障害のある児童・生徒の障害の状況や個々の実態に基づき、児童・生徒が自己の理解を深めるためのツールを作成し、効果的に活用するための指導を工夫することによって、児童・生徒は、自分のよさや強みを見付け、自己を肯定的に捉えることができるようになるだろう

IV 研究の方法

1 基礎研究

研究の仮説を検証するための基礎研究として、次のことを行うこととした。

- (1) 学習指導要領（小学校、中学校、特別支援学校小学部・中学部）の理解
- (2) 東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画に基づく研究事業「病院内教育における自立活動の在り方の研究事業」（東京都教育委員会 平成 29 年度から令和 3 年度まで）（以下、「先行研究」と表記。）の分析

2 実践研究

研究の仮説を検証するための実践研究として、次のことを行うこととした。

- 「先行研究」を基に、児童・生徒が自己を理解するための「自己発見シート」を作成する。
- 「自己発見シート」の結果を児童・生徒と共有し、指導を行う。
(小学校・特別支援学級、中学校・特別支援教室での研究授業による指導の検証 2 回)

V 研究構想図

共通研究テーマ：
「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」

現状と課題	関連法令・施策等
<p>① 発達障害のある児童・生徒は、社会性の発達に偏りなどがあり、他者の意図や感情の理解が十分でなかったり、自分の行動の特徴を十分に理解できていなかったりすることがある。</p> <p>② ①が要因となり、場の状況に応じた行動ができず、人との関わりでのつまずきや失敗に対する指摘が重なることで、自分を肯定的に捉えられなくなる場合がある。</p> <p>③ 児童・生徒が、自分と向き合い、特徴を理解し、自分のよさや強みを見付け、自己に肯定的な感情を育む中で、集団の中で状況に応じた行動ができるようになることが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達障害者支援法（平成 17 年 4 月） ○ 学校教育法の一部改正（平成 19 年 4 月） ○ 小学校学習指導要領、中学校学習指導要領（文部科学省 平成 29 年 3 月） ○ 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（文部科学省 平成 29 年 3 月） ○ 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（文部科学省 平成 29 年 3 月） ○ 東京都発達障害教育推進計画（東京都教育委員会 平成 28 年 4 月） ○ 東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画（東京都教育委員会 平成 29 年 2 月） ○ 東京都教育ビジョン（第 4 次）（平成 31 年 3 月） ○ 東京都教育施策大綱（令和 3 年 3 月）

研究主題
発達障害のある児童・生徒が自分の良さや強みを見付ける指導の工夫
～自己の理解を深め、自己肯定感を育む指導～

研究の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階を踏まえた、児童・生徒が自己を理解するための「自己発見シート」の作成 ○ 児童・生徒が自分のよさや強みを見付けるための指導の工夫

研究の仮説
<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達障害のある児童・生徒の障害の状況や個々の実態に基づき、児童・生徒が自己の理解を深めるためのツールを作成し、効果的に活用するための指導を工夫することによって、児童・生徒は、自分のよさや強みを見付け、自己を肯定的に捉えることができるようになるだろう

研究の方法	
<p>基礎研究</p> <p>(1) 学習指導要領（小学校、中学校、特別支援学校小学部・中学部）の理解</p> <p>(2) 先行研究の分析 東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画に基づく研究事業「病院内教育における自立活動の在り方の研究事業」</p>	<p>実践研究</p> <p>(1) 先行研究を基に、児童・生徒が自己を理解するための「自己発見シート」を作成する。</p> <p>(2) (1)の結果を児童・生徒と共有し、指導を行う。 （小学校・特別支援学級、中学校・特別支援教室での研究授業による指導の検証 2 回）</p>

検証の方法
<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒が自己を理解するための「自己発見シート」を作成し、児童・生徒本人が気付かなかった、自分のよさや強みを認識できるような内容や方法を工夫した検証授業を行う。 ○ 指導内容や指導方法をどのように工夫したかを明らかにする。 ○ 一定の検証期間での児童・生徒用及び教師用の「自己発見シート」の変化や行動の変容を分析し、自己肯定感を育むことに関する「自己発見シート」の有効性と活用方法を検証する。

VI 研究の内容

1 基礎研究

(1) 学習指導要領の理解

研究にあたり「先生も！子供も！保護者も！みんなで楽しい学校づくり 特別支援教室運営ガイドライン」（東京都教育委員会 令和3年3月）にある「学習と行動のチェックリスト」を活用して、児童・生徒の実態を整理し、課題を絞り込んだ。その結果、社会性の発達に関する課題があることが分かり、共通認識をもって研究を進めるために、学習指導要領により理解を深めることとした。

そこで、「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」において、児童・生徒の社会性及び自己理解について示している内容を確認した。

「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」の第6章自立活動の内容における「3 人間関係の形成」（以下、「3 人間関係の形成」と表記。）では、「（1）他者とのかかわりの基礎に関すること。（2）他者の意図や感情の理解に関すること。（3）自己の理解と行動の調整に関すること。（4）集団への参加の基礎に関すること。」の内容項目を示すとともに、「自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点から内容を示している」と明記しており、本研究における社会性の定義付けは、この部分を根拠とした。

また、「3 人間関係の形成」の各内容項目の解説において、「『（3）自己の理解と行動の調整に関すること。』は、自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになることを意味している。」と示しており、本研究における自己理解の定義付けも、この1文を根拠とした。

これらのことから、児童・生徒が集団の中で社会性を発揮できるようになるためには、自己理解を深めていくことが必要だと考えた。そのためには、自分と向き合い、自分の特徴を理解して、よさや可能性を認識し、その可能性を自分で認め、自己肯定感や自己有用感を育むことができるような指導や教材の工夫が必要である。

(2) 「先行研究」の分析

社会性の発達に課題のある児童・生徒への指導の充実に向けては、児童・生徒自身が客観的な視点で自分の状態を把握できるように指導することが重要である。自己視点で自己を理解するだけでなく、教員や同級生等の他者視点を踏まえた上で、分析的に、自己を理解できるようにすることが、自己理解を深めることにつながる。

「先行研究」では、自己視点と他者視点の両面から自己理解を深めるためのツールとして、「ふりカエルシート」（図1）を作成し、自立活動の指導に活用していることに注目した。

「ふりカエルシート」とは、児童・生徒自身が学習面、学校生活面などを自ら振り返ることで、自分自身のことを客観的に理解するためのツールとして、作成したチェックシートである。自立活動6区分27項目と関連付けたチェック項目に、児童・生徒自身が自己評価を行うことで、自分の得意なことや課題を把握することができる。また、児童・生徒用による自己分析だけでなく、教員による「教師用ふりカエルシート」との比較等を行うことで、児童・生徒が、他者視点を取り入れたより深い自己分析をすることができる。

本研究では、「先行研究」に基づき、特に、社会性に関わる「こころ」「しゃかい」の項目に着目した。

観察項目等	観察内容・場面の例	評価									
		低					高				
		まったく思はない	そう思わない	半分ぐらいは思ふ	まあまあ思ふ	そう思ふ	まったく思はない	そう思わない	半分ぐらいは思ふ	まあまあ思ふ	そう思ふ
こころ	KK1 不安やなやみはありません。	いつもある	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	KK2 おちついた気持ちですごしています。	まったく思わない	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	KK3 気になることがあっても、気持ちをきりかえることができます。	できない	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	KK4 自分の気持ちをコントロールできます。	できない	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	KK5 自分の気持ちを人に話したり、紙にかいたりできます。	できない	1	2	3	4	5	6	7	8	9
計											
しゃかい	SY1 クラスや学年のみんなで活動できます。	できない	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	SY2 学校のルールや、スポーツやゲームのルールを守れます。	できない	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	SY3 友だちにチクチク言葉やいやなことをいしません。	できない	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	SY4 こまったとき、自分から先生に相談することができます。	できない	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	SY5 人の顔つきやたいどを見て、その人の気持ちがわかります。	できない	1	2	3	4	5	6	7	8	9

観察項目等「こころ」
・気になることがあっても、気持ちをきりかえることができます。

観察項目等「しゃかい」
・こまったとき、自分から先生に相談することができます。
・人の顔つきやたいどを見て、その人の気持ちがわかります。

図1 東京都特別支援教育推進計画(第二期)・第一次実施計画に基づく研究事業「病院内教育における自立活動の在り方の研究事業」より、「児童・生徒用ふりカエルシート」

2 実践研究

(1) 「自己発見シート」の作成

本研究では、「先行研究」で示した「ふりカエルシート」を基に、小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級及び特別支援教室、中学校の知的障害特別支援学級及び特別支援教室において実態把握を行った。そして、より具体的に児童・生徒の社会性の発達の課題について実態を把握し、課題を改善するための指導につながるように「自己発見シート」(図2)を作成した。

この「自己発見シート」を活用して、社会性に関してのよさや強みと、課題を的確に捉えることで、児童・生徒への適切な指導につなげやすくなり、課題の改善に結び付くと考えた。

「自己発見シート」を活用して指導する際には、児童・生徒の社会性に関する自己理解の変容に着目し、どのように指導に結び付ければよいかを検討することが重要である。そこで本研究では、それぞれの学級において、2学期の指導開始時に、第1回の「自己発見シート」に取り組む活動を設定し、児童・生徒が自己の状態を把握できるようにした。以降は、1回目の結果に基づき、実践の中で、自己理解を深めることを目的とした自立活動の指導を行った。

この「自己発見シート」の活用を通じて、校種等を問わず、全ての教員が児童・生徒の強みに着目して児童・生徒を分析する「視点」をもってほしいと考える。また、児童・生徒が自分と向き合い、特徴を理解して、自分のよさや可能性を認識することで、その可能性を自分で認め、自己肯定感や自己有用感を育み、集団の中で状況に応じた行動ができるようになってほしいと考えた。



よいとこ見っケロシート

名前 【 OO OO 】

場面	評価					結果	
	優	良	可	劣	最		
	5	4	3	2	1		
切りかえる	やりたい気持ちや続けたい気持ちがあっても、先生の指示や合図で活動を終わらせたり、次の活動に移ったりすることができる。	5	4	3	2	1	3
集中する	授業中、周囲のおしゃべりに気を取られずに課題や活動に取り組むことができる。	5	4	3	2	1	3
想像する	相手の表情や態度から、どんな気持ちかを想像することができる。	5	4	3	2	1	4
準備する	忘れ物を防ぐために、翌日に必要な持ち物をメモすることができる。	5	4	3	2	1	2
相談する	わからないことや困ったことを、自分から大人（先生、家族）に相談することができる。	5	4	3	2	1	4
決まりを守る	学校生活のルールを守って生活できる。	5	4	3	2	1	4

(共通項目)
社会性に関する課題
「切りかえる」
「相談する」
「表現する」

・児童・生徒の良さに注目した項目
・児童・生徒やグループに合わせて設定する項目

20点 / 30

自己評価



自分の取り組みを振り返りカエル……
(前回と比べて)

※自分で見つけたことや人に褒められて見つけたところ、成長したところ、頑張ったことなどを書きましょう！

図2 「自己発見シート」

「自己発見シート」の作成に当たっては、児童・生徒が自身の強みを生かして社会性の発達を促すことができるよう、評価項目の工夫を行った。全体の構成は、「先行研究」で示した「ふりカエルシート」を基にし、児童・生徒が自身の社会性に関する課題を捉えながら、自身の長所や得意なことに着目し、強みを生かして課題解決への道筋を検討することができるよう、次のように作成した。

- ・ 短時間で自己を客観視し、振り返りができるよう、「ふりカエルシート」の内容から社会性に関する項目を精選し、「自己発見シート」の評価項目を6項目とした。
- ・ 評価項目6項目の内、3項目は社会性に関する課題について自己理解を促すことを目的に、小学校、中学校ともに共通の項目として設定した。

「教師用ふりカエルシート」から選定した3項目は次のとおりである。

- ① 「こころ」の項目③「一つのことにこだわると他のことが考えられなくなる。活動を終了したり、次の活動にスムーズに移行したりできないことがある。」
- ② 「しゃかい」の項目④「教師などの身近な大人で心を開ける相手がいない。できない、やりたくない、困ったなどを自分から表出しない。」

③ 「しゃかい」の項目⑤「場の状況や相手の表情、態度と結び付けて感情を推し量ることができない。」

- ・ 上記①②③を「切りかえる」「相談する」「想像する」という項目名に設定した。「場面」の内容は、校種により、発達段階に合わせて内容を記述し、児童・生徒が自己評価する際に、具体的な場面をイメージしやすくした。
- ・ 評価項目6項目の内、小学校・中学校共通項目以外の残り3項目は、児童・生徒が自身の長所や得意なことへの気付きを深めることができるよう、「ふりカエルシート」の社会性に関する内容から、個々の実態に合わせて設定した。
- ・ 5段階の評価により数値化・レーダーチャート化することにより、児童・生徒が自身の強みと課題を視覚的に捉えられるようにした。
- ・ 社会性に関する自身の強みと課題を、児童・生徒本人の視点による自己分析だけでなく、教員や同級生等の他者視点を踏まえた上で分析できるよう、評価記入欄を複数作成した。また、視覚的支援として、レーダーチャートに児童・生徒の自己評価に加え、教員や同級生の評価を重ねて表示できるようにした。

(2) 検証授業①：自閉症・情緒障害特別支援学級「自立活動」

プロフィール 校種：小学校 学年：4年 指導形態：一斉指導

ア 児童の実態

児童A	児童B
<ul style="list-style-type: none">・自閉スペクトラム症。・自分の気持ちや考えを言葉で伝えることが難しかったが、選択肢を与えることで、自分の気持ちや考えを言葉で伝えられる場面が増えてきている。・決められたことには最後まで取り組むことができるが、勝負などで負けてしまうと、気持ちをコントロールするまでに時間がかかる。少しずつではあるが、短い時間で気持ちの切り替えができるようになってきている。	<ul style="list-style-type: none">・自閉スペクトラム症。・元気で明るい、思ったことを言葉にしてしまう場面が見られる。1学期は「ふわふわ言葉を増やす」という目標に取り組み、友達に優しい言葉がかけられるようになってきている。・自分の好きなことには全力で取り組むことができる。苦手な課題にも少しずつ取り組めるようになってきている。

イ 指導目標・指導内容

指導目標	<ul style="list-style-type: none">・自分のよさや強みに気付くことができるようにする。
指導内容	<ul style="list-style-type: none">・「自己発見シート」を使って、自分自身のことを振り返る。・教員から見た自分の評価と自分の評価を比べて、自分のよさを見付ける。・前の自分と評価を比べることで、自分自身の成長や友達のよさについて振り返る。

ウ 授業の概要

単元指導計画

時間	主な内容（○各時間のねらい / ・ねらいに迫るための主な学習活動）
1	<ul style="list-style-type: none">○ 「自己発見シート」の使い方を理解し、自分のことを振り返ることができる。・ 1学期のことを振り返り、自分が意識してきたことを発表する。・ 「自己発見シート」の使い方を知る。・ 「自己発見シート」を使って自分を分析してみる。
2	<ul style="list-style-type: none">○ 自分のよさや強みについて理解することができる。・ 教員の作成したそれぞれの「自己発見シート」と比較し、一致している部分と違う部分について確認する。「自分から見た自分」と「他人から見た自分」があることを理解する。
3	<ul style="list-style-type: none">○ 「自己発見シート」を使って自分を振り返り、自分の成長を確認し、自信をもつことができる。・ 自分自身について振り返り、2学期の始めに記入した「自己発見シート」と比較し、成長したところを見付ける。
4	<ul style="list-style-type: none">○ 「自己発見シート」を使って友達のよさに気付くことができる。・ お互いの「自己発見シート」を共有し、友達のよいところについて発表する。

本時の実践だけではなく、今後も児童が関わる教育活動の中で日々又は定期的に行えるような手だてを3つ考えた。

(7) 「自己発見シート」の作成・活用に関すること

- ・ 学習の振り返りの場面で「自己発見シート」を継続して使用することで、定期的に児童が自分のよさや成長に気付けるようにした。
- ・ 個人で取組む時間には、自分自身のことについて集中して考えることができるように、パーティションで仕切られた個別のスペースで集中して取り組めるようにした。
- ・ 全体での振り返り際には、児童それぞれの「自己発見シート」を共有できるようにした。
- ・ 自己評価と、他者評価を比較できるようにし、児童自身が気付かなかったよさや強みに目を向けられるようにした。
- ・ 「自己発見シート」を全体で共有する場面では、拡大投影機と大型提示装置を使い、視覚的に分かりやすくした。

(4) 自己理解を深めるための指導の工夫

- ・ 「自己発見シート」そのものを使用しない活動でも、児童が伸ばしたい力を意識して活動に取り組めるような内容を工夫し、「自己発見シート」の評価項目を、児童が日頃から意識できるように継続的に取り組めるようにした。
- ・ 児童の実態に合わせて、個別に言葉掛けを行い、児童自身が、よさや強みに目を向けられるようにした。
- ・ 「自己発見シート」に取り組む際は、じっくりと取り組ませるため、手書きで数値を記入したり、自分が気付いたことなどを記入したりできるようにした。

エ 変容

- ・ 自分自身のできないところや課題に注目してしまう児童が数値を記入した後、以前の自分の姿と比べて2ポイントアップしたことについて、「気持ちのコントロールがすごくできるようになった。」と自分の成長について気付くことができた。
- ・ 「ついちくちく言葉を言ってしまうから、ふわふわ言葉を増やしたい。」と言っていた児童が、「自己発見シート」に定期的・継続的に取り組むことで、「自己発見シート」の項目を意識し、友達に優しい言葉掛けを行う場面が増えた。
- ・ 自分のよさや成長に気付くことが難しかった児童が、自分自身のよさに気付き、「できることがふえているのを見てすごくうれしかったです。」とワークシートに記入し、発表することができた。
- ・ 自己評価と他者評価を比べ、「先生も自分も高い点数を付けているということは、できているってことだと思う。」と自分自身のよさを見付けることができるようになった。
- ・ 第1時の自己評価では、自分のよさを言葉で表すことが難しいと発表していた児童も、「自己発見シート」の項目を意識させることで、第3時では、第1時の自分と比べることで、自分自身のよさを発見し、「言葉で伝えることができるようになった。」とワークシートに記入し、発表することができた。

【児童の「自己発見シート」の数値の変容】

※「自己発見シート」の内、授業内で意識させた項目

A児

(第1時)

項目	数値
気持ちをコントロールする	1
言葉で伝える	3



(第3時)

項目	数値
気持ちをコントロールする	3
言葉で伝える	4

B児

(第1時)

項目	数値
苦手にチャレンジする	4
ふわふわ言葉を使う	3



(第3時)

項目	数値
苦手にチャレンジする	5
ふわふわ言葉を使う	4

A児作成の自己発見シート

よいとこ見っケロシート

名前 []

場面	評価					結果
	低	中	高	高	高	
切りかえる	1	2	3	4	5	5
想像する	1	2	3	4	5	2
相談する	1	2	3	4	5	3
ルールを守る	1	2	3	4	5	3
気持ちをコントロールする	1	2	3	4	5	1
言葉で伝える	1	2	3	4	5	3

	9月	11月
1 切りかえる	5	5
2 想像する	2	3
3 相談する	3	4
4 ルールを守る	3	4
5 気持ちをコントロールする	1	3
6 言葉で伝える	3	4

17点 / 30

自己評価

9月の自分と今の自分を比べてみて

気持ちをコントロールがすごくできるようになった。

※自分で書いていたところや人に書いてもらったところ、成長したところ、がんばっていたところなどを書きましょ!

B児作成の自己発見シート

よいとこ見っケロシート

名前 []

場面	評価					結果
	低	中	高	高	高	
切りかえる	1	2	3	4	5	4
想像する	1	2	3	4	5	4
相談する	1	2	3	4	5	5
ルールを守る	1	2	3	4	5	4
気持ちをコントロールする	1	2	3	4	5	3
言葉で伝える	1	2	3	4	5	4

	9月	11月
1 切りかえる	4	5
2 想像する	4	4
3 相談する	5	5
4 ルールを守る	4	5
5 気持ちをコントロールする	3	4
6 言葉で伝える	4	5

24点 / 30

自己評価

9月の自分と今の自分を比べてみて

できることがふえているのを見てすごく嬉しかったです。とくに、ふわふわ言葉のところがよくなくて、うれしいです。

※自分で書いていたところや人に書いてもらったところ、成長したところ、がんばっていたところなどを書きましょ!

9月第1回の自己評価が点線のレーダーチャート、11月第5回の自己評価が実線のレーダーチャート

オ 考察

児童の実態を踏まえて、「自己発見シート」の項目を決めたことで、自分自身を振り返りやすくなった。また、継続的に同じ項目について振り返ることで、自分自身のよさや成長に気づきやすくなった。「自己発見シート」は、振り返りシートとして活用し、数値化とレーダーチャートによる表現との両方を用いることで、児童は理解しやすい方を選ぶことができた。

また、自分自身の評価と、教員による他者から見た評価との数値を比較することで、自分のよさを改めて発見することができた。今後も継続して取り組むことで、児童が自分自身のよさや強みに気付ける場面を増やしていく。

(3) 授業実践②：特別支援教室「自立活動」

プロフィール 校種：中学校 学年：1年 指導形態：小集団指導

ア 生徒の実態

生徒C
・ADHD。自己肯定感が高く明るい性格で、授業中は頑張っていて集中しようとする姿が見られる。言いたいことをうまく言語化できず、本人も困っている様子がある。

生徒D
・ASD/ADHD。自己肯定感が低いが、特別支援教室では前向きに活動に取り組む姿も見られる。疲れを溜めてしまうところがある。

イ 指導目標・指導内容

指導目標	・自分のよさや強みを見付け、苦手をカバーすることができる
指導内容	・単元の始めに「自己発見シート」を使い、自分の現在の力を数値化する ・他者評価をすること、されることを通じて自分のよさに気付いていく ・よい部分や強みを生かして、苦手なことをカバーする学習に取り組む ・単元の最後に自己評価を行い、成長したところに気付く

ウ 授業の概要

単元指導計画

時間	主な内容（○各時間のねらい / ・ねらいに迫るための主な学習活動）
1	○自分の現在地を知り、今後の学習の見通しを立てる。 ・「自己発見シート」第1回（現在の自己評価）
2	○人から見た自分の good な一面を見付ける。 ・ペアでの他者評価の学習 ・「自己発見シート」第2回（他者評価）
3	○「自己発見シート」の得意を生かして、苦手をカバーする。
4	・生徒の得意な部分で、苦手な部分をカバーするペア学習 ・「自己発見シート」第3回（在籍学級担任評価・第4時のみ）
5	○「自己発見シート」で前の自分と今の自分を比較し、変化に気付く。 ・「自己発見シート」第4回（自己評価及び初回との比較）

本単元では、本時の実践だけではなく、今後も生徒が関わる教育活動の中で日々又は定期的に行えるような手だてを3つ考えた。

(7) 「自己発見シート」の作成・活用に関すること

- ・ 発達段階を踏まえ、目標を「『自己発見シート』を使ってよさや強みを見付け、苦手をカバーする」とした。
- ・ 「自己発見シート」を使った自己評価および他者評価のタイミングを①単元の始めの自己評価 ②ペアの友人からの他者評価 ③在籍学級担任からの評価 ④単元の最後の自己評価 の4回とした。
- ・ 「自己発見シート」の項目は、生徒C及びDは全て共通の項目となるようにし、互いの様子から他者評価をしやすいように設定した。

- ・ 生徒Cは自己肯定感が高く、生徒Dは自己肯定感が低い。自己評価と他者評価に差があるため、互いに評価する活動を取り入れることで、自己評価と他者評価の差を補完し合えるように、在籍学級が同じ生徒のペア学習として設定した。

(イ) 自己理解を深めるための指導の工夫

- ・ じっくりと自分を見つめる時間を確保するため、第1回の自己評価は手書きの形式とした。以降は、一人1台端末を活用し、データファイルに入力する形式とし、数値やレーダーチャートによる変容が分かるようにした。
- ・ 生徒C及びDが共通認識できるキャラクターを用いた他者評価の活動を導入として行い、自己評価と他者評価の差について、生徒が理解できるようにした。
- ・ 生徒C及びDに共通して「自己発見シート」のポイントが低かった「表現する」の項目に着目し、指導内容を工夫した。両者に共通して、「自己発見シート」の「相談する」の項目のポイントが高かったため、生徒自身がよさを認識できるよう促し、自身の強みを生かして、課題と向き合う方法を見付けられるような内容とした。
- ・ 在籍学級担任に「自己発見シート」による対象生徒の評価を依頼した。生徒には、より評価が具体的に伝わるよう、ビデオレター形式で伝える場面を設定した。
- ・ 自己理解を深めるための教材として、一人1台端末のアプリケーションを活用し、生徒の意欲や理解の伸長につなげた。

エ 変容

- ・ 生徒Cについては第1時と第5時で比較して「相談する」の評価「5」から「3」へ2ポイントダウン、「表現する」の評価が「2」から「3」に1ポイントアップしていた。生徒C自身が「表現するが前よりもできているなあと思った。」と振り返ることができた。
- ・ 生徒Dについては第1時と比較して「相談する」の評価が「3」から「4」へ1ポイントアップ、「表現する」の評価について、「1」から「3」に2ポイントアップしていた。「説明の活動が自分的に成長したと思います。『表現する』をけっこう上げられたからよかった」と生徒D自身が言語化して表現できた。

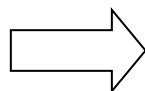
【児童の「自己発見シート」の数値の変容】

※「自己発見シート」の内、授業内で意識させた項目

生徒C

(第1時)

項目	数値
相談する	5
表現する	1



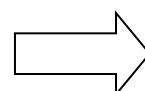
(第5時)

項目	数値
相談する	3
表現する	3

生徒D

(第1時)

項目	数値
相談する	3
表現する	1



(第3時)

項目	数値
相談する	4
表現する	3

生徒C作成の自己発見シート

よいとこ見っケロシート

名前 []

場面	評価					結果
	低	中	高	高	高	
切りかえる	1	2	3	4	5	3
表現する	1	2	3	4	5	3
想像する	1	2	3	4	5	4
ルールを守る	1	2	3	4	5	3
相談する	1	2	3	4	5	3
様々に過ごす	1	2	3	4	5	5

今月の自己発見	今の自分の強み	来月の自己発見
1	3	2
2	3	2
3	4	4
4	3	3
5	3	5
6	3	3

21点 / 30

自己発見

自分の取組強みを振り返りカエル……

生徒D作成の自己発見シート

よいとこ見っケロシート

名前 []

場面	評価					結果
	低	中	高	高	高	
切りかえる	1	2	3	4	5	2
表現する	1	2	3	4	5	3
想像する	1	2	3	4	5	3
ルールを守る	1	2	3	4	5	4
相談する	1	2	3	4	5	4
様々に過ごす	1	2	3	4	5	2

今月の自己発見	今の自分の強み	来月の自己発見
1	2	2
2	3	1
3	3	3
4	4	4
5	4	3
6	2	1

18点 / 30

自己発見

自分の取組強みを振り返りカエル……

9月第1回の自己評価が点線のレーダーチャート、11月第5回の自己評価が実線のレーダーチャート

オ 考察

第1回の「自己発見シート」の取組を基に、その後の授業を組み立てていくことが、ねらいに迫る上で有効だった。毎回授業の始めに「見っケロ会議」と題した「自己発見シート」を確認する短時間のミーティングを設定したことで、生徒それぞれが自身の強みや伸ばすべき力を意識しながら、授業に取り組むことができた。また、生徒Cは「相談する」の評価について数値の低下が見られたが、ペアの相手や在籍学級担任による他者評価、授業内の活動によって自分の評価を見直し、成長した部分を認めながら、第5回ではより実態に近い自己評価を付けることができていた。

VII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 自己のよさや強みの発見について

- ・ 児童・生徒と、教員の「自己発見シート」を同時に提示することで、児童・生徒が自分自身で気付かなかったよさを意識できるようになった。
- ・ 特別支援教室の児童・生徒については、「自己発見シート」を学級担任と共有したことで、在籍学級においても、プラスの言動や強みについて児童・生徒に気づきを促すことができた。
- ・ 「自己発見シート」を継続的に使用することで、活動中や授業の振り返りににおいて、児童・生徒が評価項目に関する発言をするようになるなど、伸ばしたい力をより意識して活動に向かうようになった。

(2) 自己理解の深まりについて

- ・ 実態と自己理解に差があった児童・生徒が、自己評価した時には気が付かなかった点に他者評価から気付くことができ、自己理解が深まる場面が見られた。
- ・ 自分専用のシートという点から、自分のことについて考える時間という意識を児童・生徒がもち、自己理解をより深めることができた。

(3) 自己肯定感の育成について

- ・ ねらいである「互いのよさを認め合う」場面が見られ、小集団や学級集団で、共に学ぶ友達から認められることで、自己肯定感を高めることにつながられた。
- ・ 教員による「得意な力を使って活動に臨むように」という言葉掛けで、自分を肯定的に捉えられる児童・生徒が増え、自己評価が高まった。

(4) 作成ツール「自己発見シート」について

- ・ 本研究では、同じツールを用いて、次のような授業内容を組み立てることができた。
 - ① 「自己発見シート」を用いた指導内容を主として、単元や活動を組み立てる。
事例) 中学校知的障害特別支援学級・単元名「自己アピールをしよう」
 - ② 振り返りで「自己発見シート」を活用し、その他の学習活動と組み合わせる。
事例) 小学校情緒障害特別支援学級・小集団指導における振り返りの活動以上のことから、校種や学年、障害種を問わず、指導内容に活用できる汎用性の高いツールであることが分かった。

2 今後の課題

- ・ 「自己発見シート」で、常に高く評価する児童・生徒は、自己理解を深められたかどうかをシートの記述のみから評価することが困難であった。よさや強みを発見し伸ばしていく指導と、適切な自己理解を促す指導をしていくことが必要である。
- ・ 「自己発見シート」を活用した指導では、伸ばしたい力を児童・生徒が選択する際、児童・生徒が評価の低い項目を選択することが多かった。「よさ、強み」に注目できるよう、具体的な姿を教員と児童・生徒間で共有した上で指導に当たり、改善を図る。

令和5年度 教育研究員名簿

特別支援学校等・発達障害等教育

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立九段小学校	主任教諭	○青木千尋
品川区立八潮学園	主任教諭	佐藤栄子
品川区立大崎中学校	主任教諭	美濃 翼
葛飾区立清和小学校	主任教諭	◎加賀裕紀子
武蔵村山市立第五中学校	主任教諭	川原啓嗣

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課
指導主事 魚谷 有里

令和5年度
教育研究員研究報告書
特別支援学校等・発達障害等教育

令和6年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849